

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	地域材利用普及啓発事業	会計	一般会計	事業No.	424	施策順No.	11-030
		事業種別	政策・その他	予算科目	6-2-2-26-2		
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	林務課		
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動			事業期間	開始	18	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	①工務店等木材林業関係者 ②地域市民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		林業木材産業関係者数(人)		600	600	600	600	
		飯田市の人口(人) (H22.10.1推計人口)		106630	105691	105036		
意図		①販路を見出す②地域産材を利用してもらう 当面は販路を開拓するための懇談会を中心に情報交換を行う。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	木材産業関係者との各種検討会参加者数(人)	400	400	500	500	480	500	B
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	木材の価格も安く流通が停滞している状況で更なる取組が必要である。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ul style="list-style-type: none"> ・地域材(間伐材)の利用を促進させるため、民間主導による商品開発などの取り組みに支援を行うなど、需要拡大の意識啓発活動を行う。 ・木材産業関係者との連携による地域材流通販売と生産体制について、マーケティングを実施する。 ・隣接県に大型合板工場が平成23年4月稼働し、地域材の流出など動向を見守るとともに対策の必要がある。 ・南信州共同製材施設建設によって、製材加工コストを削減し、販路の拡大が必要。 		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	製材加工のコスト削減のための大型製材施設の建設により、地域産間伐材の需要拡大戦略づくり 飯田市産木材に関する情報発信、森づくり作業体験、木工体験、パネル展示、地域材に関する相談や講演会開催等	参加人数	480人
23年度実施計画	製材加工のコスト削減のための素材生産のコスト分析と間伐材需要拡大戦略づくり 飯田市産木材に関する情報発信、森づくり作業体験、木工体験、森林教室、林産物販売、パネル展示、地域材に関する相談や講演会開催等	参加人数	500人

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		175	113	166		
計(A)		175	113	166		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			113			

4 事業に対する市民や議会の意見

<p>市民から木のよさ、木の健康で快適な暮らしを期待する声があり、こうしたふれあい、体験し、実感できる機会を求める声がある。 近年環境に配慮した住宅などの関心が高まっている。 H21年 市議会からの提言 ・地域材利用を推進するため、これまで以上に、消費者のニーズを喚起する取り組みに力を入れる必要がある。</p>
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	事業者等が出荷額等を高める活動をする	施策の成果指標又はムトス指標	林業生産額(億円)
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	木材に付加価値をつけるためには、南信州製材施設の建設が必要で地元の製材業者との調整が図られた。木づかいコンテストの開催によって地域の木工産業等の掘り起こしや活性化につながった。		地域経済自立度 (%)
	後期に向けた課題	製材所建設には国の補助金が絶対条件であり、今後の国の動向待ちである。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	地元の製材業者との共存に向けての調整が図られた。		
	後期に向けた課題	木材価格が安価なため、搬出間伐が進んでいないのが現状であり、製材所建設に向けて搬出の推進対策が必要である。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	コストの削減に努めた。		
	後期に向けた課題	コストの削減に努める。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切 でしたか	4年間の振り返り	木材産業振興のために市のかかわりは適切である。		
	後期に向けた課題	木材産業振興のために市のかかわりは適切である。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果 たしましたか。 ②その主体が役割を 発揮するために、行政はどのような働き かけをしてきましたか、又は、配慮してき ましたか	4年間の振り返り	飯伊森林組合、地元の製材業者 木材産業振興のために市のかかわりは適切である。		
	後期に向けた課題	飯伊森林組合、地元の製材業者 木材産業振興のために市のかかわりは適切である。		
全体を通じて	4年間の振り返り	木材に付加価値をつけるためには、南信州製材施設の建設が必要で地元の製材業者との調整が図られた。		
	後期に向けた課題	飯伊地域の搬出間伐の推進が必要である。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------